

令和4年度

病害虫発生予察特殊報(第2号)

令和4年9月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：モモヒメヨコバイ（学名：*Singapora shinshana* (Matsumura)）
作物名：ウメ、ハナモモ等

1 発生経過

令和4年9月、県内のウメ生産園地において、ヨコバイ類の加害による葉の白化症状を確認した。症状の見られた葉に寄生している成虫を採集し、農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、モモヒメヨコバイと診断された。

2 形態および生態

成虫の体色は黄緑色で、体長は3~3.5mmである。複眼は黒色で、頭頂部に黒点がある。若齢幼虫は薄い黄色で、終齢幼虫になるにつれ成虫と同じ黄緑色になる（図1）。

3 被害および分布と寄主植物

(1) 被害

成虫と幼虫が葉面に寄生し、吸汁することにより葉色が徐々に薄くなる。葉全体が吸汁されると白化する。なお、被害が見られる葉の裏側には幼虫の脱皮殻が付着していることが多い（図2, 3）。発生が著しいと早期落葉する（図4）。

(2) 分布と寄主植物

沖縄県での分布が確認されていたが、令和元年に和歌山県で確認されて以降、本州、四国、九州の計19都府県で発生が確認されている。国内ではウメ、モモ、スモモ、アンズ、オウトウ、ハナウメ、ハナモモ等のバラ科果樹を加害することが報告されている。

4 防除対策

- ウメまたは小粒核果類ではモモヒメヨコバイに登録のある防除薬剤を使用する。なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。
- 発生初期であれば、本種に寄生された葉は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- 本種は成虫で越冬する可能性があることから、春先からの発生には特に注意する。なお、通常の薬剤防除を行っている生産園地では、本種による大きな被害はこれまでに確認されていない。



図1 モモヒメヨコバイ成虫



図2 成虫が寄生したウメの葉

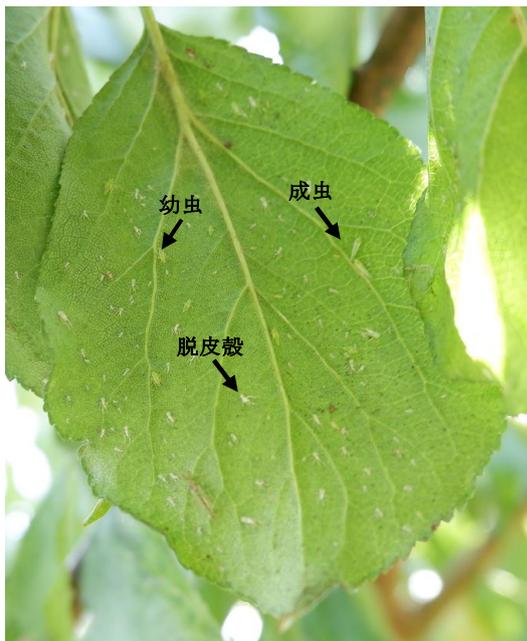


図3 成虫及び幼虫が寄生したウメの葉裏

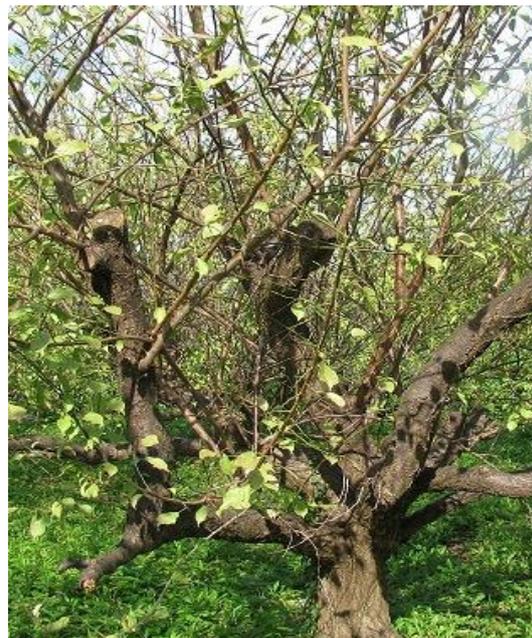


図4 落葉が進展した樹

神奈川県農業技術センター 病虫害防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>